

幻の『杉山白瓜』を探す

『杉山白瓜』の名前を初めて聞いたのは、焼津市保福島の焼酎屋さんからでした。

チームほととぎすで「ほととぎす漬」を作るにあたり、どんな白うりで奈良漬を作ったらいいいのか、調べている時でした。

数年前まで「ほととぎす漬」を製造していた焼酎屋さん。

最終的には、その材料である白うりの奈良漬を外部から取り寄せて製造していたようですが、かつては、ご自分のお店で漬けていらっしゃったそうです。その際に使用していたのが、東益津で作られていた「すぎやま」という品種の白うりだったと思うと、お店のお父さんから伺いました。相当大きなサイズの白うりだったとか。

実際にどんな白うりなのか、その白うりを育ててみたい。

そう思って、ネットなどで「すぎやま」について調べ始めましたがヒットせず。静大の稲垣先生にうかがったところ、地元でほんの僅か作られていたというようなものなのではとの回答。「なくなってしまった可能性も大なのでは」という言葉も添えられました。

ところがある日、ひょんなことから「杉山白瓜」の情報が舞い込みました。

昔から農家をやっていた山田さん。お義母様が「すぎやま」という白うりを作っていたと思うとのこと話してくれました。そこで、詳しくお話を聞くことにしました。

お話を伺ったのは、山田きえさん（95歳）と大山照代さん



漬物名人の大山照代さん。

「杉山白瓜」はぬか漬けにするととてもおいしい、柔らかな品種だったといえます。色がきれいな若竹色で、花落ちの部分がぶくっと膨れているのが特徴。八百屋などで白うりが並べられていても、そのお尻の形ですぐに「杉山白瓜」かどうかを見分けることができたそうです。

山田きえさんのお宅は農家で、今は引退してしまいましたが、長く畑を耕していらっしゃいます。

西小川にある山田さんの畑では、毎年「杉山白瓜」を作っていました。

今でいうマルチのかわり。初夏、夏にかけて、「杉山白瓜」を地這いにし、雑草をはやさないために使っていたとのこと。

「杉山白瓜」は小川にあった「ナス苗屋」さんで販売していた白うりで、近年まで作ってらっしゃった方が多かったとのこと。

そこで次にナス苗屋さんを辿っていくことにしました。



「杉山白瓜」を開発したのは、焼津市小川にあった「ナス苗屋」と呼ばれていた種苗屋の杉山勲さんです。既に杉山さんは他界されており、後を継いだ息子さんも数年前に亡くなられていました。最後に採った種が残るだけで、すでに杉山さんのお宅ではすぎやまの栽培はしていません。残念ながら、専門的なことが分かる資料は残されていず、開発の過程等については既に記録が失われてしまいましたが、息子さんの奥様である杉山みち子さんからお話を聞くことができました。

「杉山白瓜」は、みち子さんがお嫁に来られた昭和38年より以前に開発された品種でした。

勲さんはとても丁寧な方で、畑の畝もまっすぐ美しく作る方だったとのこと。

柔らかな食感、また、おしりの部分がでべそのような形になっているのが特徴で、白うりとまくわ瓜をかけて作った品種らしいとのこと。開発を手伝った県の試験場の方から開発特許の申請を薦められたということから、優れた品種だったことが分かります。ナス苗屋では、種として「杉山白瓜」を販売していました。

種は毎年、選抜した実を甘い匂いがするまで大きくし、種取りをすることで固定させていました。家の裏に流れる川で「ゆとり」を使って、浮いた種を除き、残ったも



のを乾かし製品としていました。



昭和58年には、品種改良に真摯に取り組み、優れた品種である杉山白瓜を産み出した業績が認められ、焼津市から産業奨励賞を受賞。

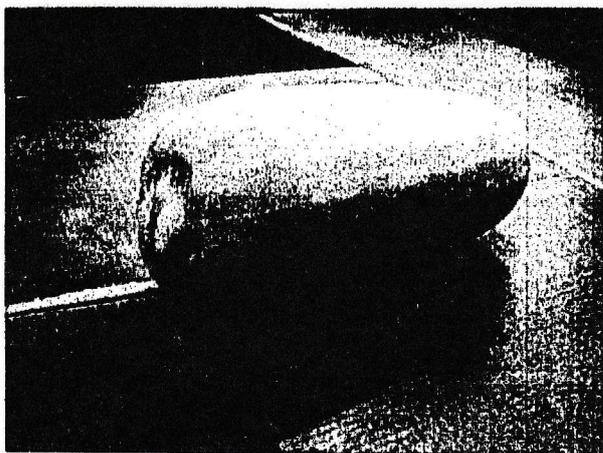
「杉山白瓜」の種は、勳さんが亡くなった後、息子さんである雅洋さんが引き継ぎました。雅洋さんは兼業で農家をしていたため、販売まで手が回らず、焼津駅前「望月種苗」が一括して種を預かり、

他の種苗屋等に販売するようになりました。

「望月種苗」さんに問い合わせたところ、種は掛川から静岡まで、広範囲で売られていたとのこと。取引先の中にはろくなんなどの大手も含まれていたと仰っていました。

平成20年、残念ながら、「ナス苗屋」の廃業と共に、この白うりの種は販売されなくなりました。杉山さんのお宅でも、最後の種を残すのみ。この種を発芽するのはきわめて難しいとのこと。

しかし、「杉山白瓜」は、苗として今も残されています。



大井川の「岩本農園」さんは、お父様の代からずっとこの「すぎやま」のファンだったそうです。あまり儲けのある商品ではありませんが、漬物好きなお主人のお気に入りの品種で、果皮が固く、歯ごたえがいいのが特徴とのこと。種が販

売されなくなった平成 20 年より後も、ずっとこの「杉山白瓜」を作り続けていました。

「岩本農園」では「杉山白瓜」を苗として販売しています。ナス苗屋さんと同じく、次年のために選抜した実から種を取ることで、品種を固定しているとのこと。定かではありませんが、現在「杉山白瓜」を商品として栽培しているのは「岩本農園」さんのみなのではないかと思われます。

杉山家では、今もこの白うりの種を勲さんの仏壇に供えているそうです。まだまだ農業技術も今のように進んでいなかった時代、この白うりを試行錯誤しながらの開発。ご苦労されたであろうと想像できます。それだけに、「岩本農園」さんが今も大切に作られていることにも感動しました。

苗扱い店

旧大井川町 岩本農園さん

静岡県焼津市吉永 6 8 5 - 1

054-622-1937

苗の値段は 100 円程度とのこと。

☆ 2017/09/26 郵送で受領